

特別展

台湾高砂族の服飾

— 瀬川コレクション —

会期 昭和58年6月21日(日)～8月14日(日)

休館日 6/27、7/4・10・18・25、8/1・8

会場 松濤美術館 第一会場(地下1階) 全部族服飾
第二会場(2階特別陳列室) パイワン族服飾



台湾は小島とはいえ、三千メートル級の山々が聳え、その気候と地形はきわめて変化に富んでいます。

中国人が渡来する以前から、この島に住んでいた人々は高砂族と呼ばれ、部族ごとに個性あふれる見事な衣服を作り出し、着用してきました。

本展は、代表的な九種族の衣服に加えて、袋類、かぶりもの、首飾やトンボ玉などの装身具類をあわせて百三十点余を初公開いたします。

部族の女性達が根気よく織り上げてきたこれらの衣服は、華やかな色彩の世界を現出しているばかりではなく、日常着には、生活の汗と温もりが、祭礼

用着には、力への希求と祈りが込められています。

古き良き時代をしのばせるこれらの衣服と装身具の類は、文明の流入による彼らの生活の変化とともに減じ、今は、これらの遺品を残すだけとなっております。

ここに陳列される服飾品は、渋谷区在住の瀬川孝吉氏が、台湾で情熱を傾けて蒐集された貴重な品々であります。

どうぞこの機会に、台湾高砂族の素晴らしい服飾品の数々を御鑑賞ください。

講演会 (B2 ホール)

○7月2日(土)午後2時より

「台湾の思い出とコレクション」

瀬川 孝吉

○8月6日(土)午後2時より

「台湾高砂族の文化について」

東海大学名誉教授 宮本 延 人

特別陳列

渋谷区在住作家の作品

(サロンミューゼ (2階) 出品目録/作家略歴(50音順))

伊藤隆康《トゲの箱》1967年 アルミ 高さ66cm

昭和8年(1933)兵庫県明石市に生まれる
昭和33年(1958)東京芸術大学絵画科卒業

飯田満佐子《花筵》1977年 彩墨 F20号

大正8年(1919)東京に生まれる
昭和29年(1954)大東文化大学中国文学科卒

入山白翁《渦潮》1982年 漆画 変形30号

明治37年(1904)新潟県白根市に生まれる
昭和8年(1933)東京美術学校漆工科卒業

清原啓一《マジョリカのポピー》1982年 油彩 変形25号

昭和2年(1927)富山県砺波市に生まれる
昭和27年(1952)明治大学卒業

児玉幸雄《広場の朝市》1982年 油彩 P12号

大正5年(1916)大阪市に生まれる
昭和14年(1939)関西学院大学卒業

五味秀夫《大通り》1972年 油彩 F30号

大正11年(1922)東京に生まれる
昭和21年(1946)東京美術学校卒業

近岡善次郎《みちのく春彼岸》1975年 油彩 F50号

大正3年(1914)山形県新庄市に生まれる
昭和8年(1933)文化学院美術部卒業

辻朗《残雪の山》1965年 油彩 F50号

大正8年(1919)東京に生まれる
昭和20年(1945)東京美術学校油絵科卒業

堀内正和《水平の円筒》1959年 鉄 高さ27cm

明治44年(1911)京都市に生まれる
昭和4年(1929)東京高等工芸学校彫刻部中退

村田勝四郎《トルソ》1943年 ブロンズ 高さ84cm

明治34年(1901)大阪市に生まれる
大正14年(1925)東京美術学校彫刻科卒業

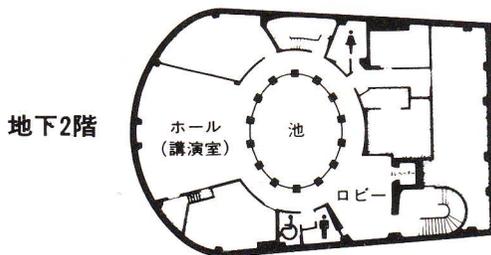
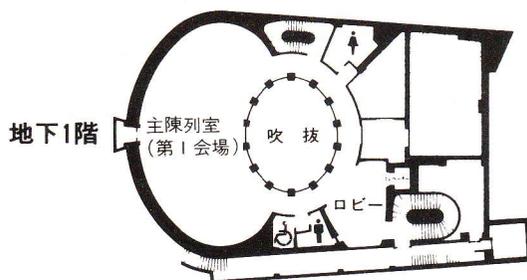
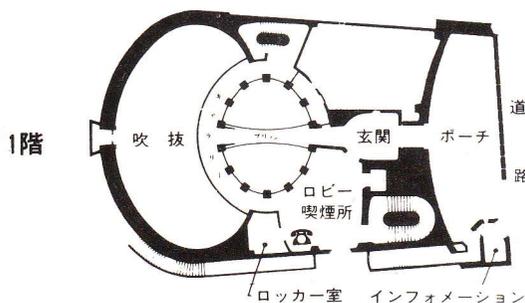
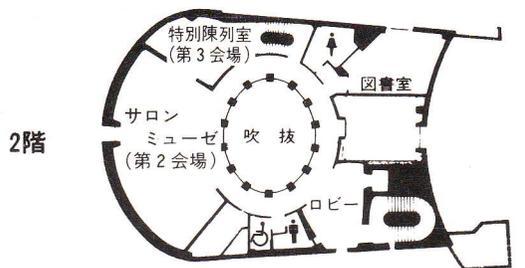
森芳雄《静物》1960年 油彩 F20号

明治41年(1908)東京に生まれる
大正15年(1926)慶応義塾普通部修了

脇田愛二郎《コスミックボリューム》1981年 ステンレス

スチール・木 高さ113cm
昭和17年(1942)東京に生まれる
昭和39年(1964)武蔵野美術大学卒業

松濤美術館・平面図



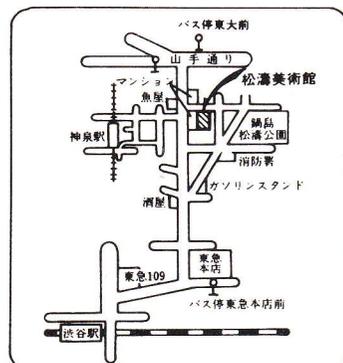
《ご案内》

○開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

○休館日 第2日曜日及び他の週の月曜日
国民の祝日の翌日
年末年始(12月29日～1月3日)

○入館料

	個人	団体(20人以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円



渋谷区立松濤美術館 〒150 東京都渋谷区松濤二丁目14番14号 電話 (03)465-9421